

1 自己評価

今年度の重点目標
1 確かな学力を身につけた情操豊かな生徒の育成
2 進路実現を目指したキャリア教育の充実
3 生徒の学びを支える、安全で魅力ある教育環境づくりの推進

重点目標の具体的努力点
1 ① 生徒の自ら学ぶ態度の育成と学力の伸長を図るために、主体的・対話的で深い学びとなるよう、電子黒板・タブレット端末を活用するなど、授業や指導方法の工夫改善に努める ② 特別活動等を通して生徒の気力、体力を充実させるとともに、挨拶を励行させるなど品位ある生活態度を涵養し、知・徳・体の調和のとれた成長を促す ③ 探究的な学習活動を推進することにより、SDGs等の今日的でグローバルな課題に主体的に向き合い、その解決に向けて具体的に行動できる力を育む
2 ① 自己の在り方生き方について考えさせ、社会的・職業的自立に向けて必要な能力や態度を育成する ② 3年間を見通した個に応じた指導を充実させ、進路選択への主体性・積極性や難関大学等へのチャレンジ精神を育成する
3 ① 安全・安心な学校づくりを目指し、生徒の状況の把握と感染症予防、共学化に伴い充実した施設・設備等の有効利用及び適正な維持管理、校舎内外の美化、事故防止等に努める ② 校務支援システム等の活用により、働き方改革を推進する

(1)各部、学年、教科による取り組み

重点目標(具体的努力点)について、特に関連・取り組んだ項目についての自己評価。

				重点目標1		重点目標2		重点目標3		評価	A:達成できた B:概ね達成できた C:あまり達成できなかった D:達成できなかった
部	学年教科	各部学年教科の努力目標↓	重点目標の具体的努力点→	①	②	③	①	②	①	②	取り組み・達成状況等
部	学習	○生徒自らが考え、行動できるよう様々な面で支援し、主体的な学びにつなげていく ○将来に向けて、確実な学力が身につくよう、学習環境の在り方について整備していく		B	B	B	B	B	B	B	・生徒の様子も変化してきており、生徒が自ら主体的に学ぶ工夫がさらに必要と考える。
	生徒	○節度ある生活態度の育成 ○交通事故防止(特に自転車事故防止) ○教育相談の充実		B	B	B	B	B	B	B	・共学化に伴い、男子生徒向けの生徒指導の実践については、今後も改善の余地があると考えている。
	特活	○学校行事の適切な運営 ○部活動の奨励と充実、及び、部室・活動施設設備の管理の徹底		B	B	B	B	B			・学校行事については次年度に向けての懸案事項も多いが、概ね安全・安心な実施を実現することができた。 ・各部顧問の先生方から様々な意見・要望が出され、その都度対応することはできたが、特活部だけでは解決できない問題も多く、次年度への課題が多く残った。
	健康	○生涯を通じて健康な生活を送るための知識の習得と実践するスキルを養う ○積極的に運動を実践し、健康な生活を送る態度を育成する ○災害や感染症に対する意識を高め、安心・安全な生活を送る態度を育成する ○清掃への取り組みの徹底 ○美化意識の高揚		B	B	B	B	B	A	B	・感染症予防対策として昨年と同様に換気、手指消毒の徹底、教室内での生徒同士の距離の確保など配慮事項を保健だより等を利用し徹底した。 ・学校での安心・安全を確保する主体的な取り組みとして、生徒会や各種委員会と連携しながら活動した。
	進路	○生徒が望む進路を実現できるように各学年の段階にあった適切な指導助言を行う。 ○宇都宮中央女子高の有終の美が飾れるように進路実績を質・量ともに上げるように尽力する。					B	B	B	B	・進路イベントや配布物を通してアプローチをはかっているが、LHRが少なく、最善のアプローチとは言えない。探究や特活関係のLHRとの兼ね合いが難しい。1・2年で夢ナビなどを活用してもらえたのはよかった。 ・例年度より多くの者が指定校推薦を利用した。また、学校推薦型選抜(公募)や総合型選抜で進路を決めている生徒もいる。国公立大学の一般選抜受験者数は昨年度より減少するが、生徒の希望進路実現という努力目標には適っていると考える。まだ進路が決まっていない生徒を最後まで励まし続ける事が大切である。
	教務	○教育課程の適正実施、及び、授業時数の確保 ○校務運営の協同化及び効率化の推進 ○情報の管理・活用の強化		B			B	B	B	B	・生徒のコース・科目選択についてはおおむね進路希望通りの選択ができるよう指導を行えた。 ・校内での無駄な印刷を極力なくすよう引き続きペーパーレス化を推進していきたい。
	渉外	○新校のスタートにふさわしい学習環境の充実に寄与する ○同窓会、PTA会員が取り組みやすく、安全で無理のない活動計画に努める ○会計関連業務の円滑で確実な実施に努める			B				B		・生徒たちが安全に安心して学校生活を送れるよう各種行事や委員会活動に協力できた。
学年	1年次	○好ましい生活習慣の確立 ○学習習慣の確立 ○進路意識の喚起		B	B	B	B	A	B	B	・難関大に挑戦するための意欲の喚起と学力の向上を目指して上位者に対する指導を開始したが、目的を達成できるよう今後もしっかりと継続していきたい。ただ、中下位層の意欲喚起が課題。指導を工夫し、学年全体の学力向上を図ってきたい。
	2年次	○好ましい生活習慣の確立 ○学習習慣の確立 ○進路意識の喚起		B	B	B	B	B	B	C	・2年次になり、学習の取り組みに、個々の差が拡大してきた。宇都宮中央高校一期生としての自覚と矜持を持たせ、進路実現に向けて真摯に努力させたい。
	3学年	○自らを律する力の涵養 ○進路実現に向けた学習指導の充実 ○進路実現に向けた進路指導の充実		A	B	C	A	B	A	B	・宇都宮中央女子高校の最後の学年として、自ら学び自己変革をし、最終的に自己実現を図る生徒の育成を目指したが、達成できるのは一部の生徒達になってしまった。本校の現状に満足し高みを目指したがいらないという気質が払拭できなかった。
教科	国語	○学習の習慣化を促し、主体的に学ぶ態度を育み、学力の向上を図る ○思考力・判断力・表現力を向上させる		A			B	A	B	B	・各科目担当者同士で多くの情報を共有し、指導内容について検討、向上を図ることができた。 ・百問繚乱の導入により試験の採点処理速度が大きく向上した。 ・習熟度別授業により、生徒の理解度に応じた指導を行うことができた。
	地歴公民	○多様な手法を用いた思考力・表現力・判断力を育む授業の展開 ○基礎学力向上につとめ、発展へつなげる学習を促す		A			A	B	B	B	・各科目担当者同士で授業展開や授業方法について情報を共有しながら、思考力・表現力の向上を図ることができた。 ・各授業において、授業内容と現代社会との結びつきについて可能な限り触れ、現代社会の諸課題に対する興味関心を高め、問題解決能力の育成に努めた。
	数学	○基礎学力の定着を図る ○進路実現のための学力向上に努める		A			B	B	A	B	・各科目担当間で情報をできる限り共有し、指導内容について検討したことにより、指導力の向上を図ることができた。 ・百問繚乱の導入により試験の採点処理速度が大きく向上した。その分、試験問題の検討や、試験後の生徒の指導等に時間を割くことができた。

				重点目標1		重点目標2		重点目標3			
部	学年教科	各部学年教科の努力目標↓	重点目標の具体的努力点→	①	②	③	①	②	①	②	取り組み・達成状況等
教科	理科	○基礎学力の向上を図り、科学的思考力を育成する ○大学など他機関との連携を積極的に図り、生徒の自然科学に対する興味・関心を高め、学習意欲の向上に努める		A			B	B	B	A	・各科目担当間で小まめに情報を共有し、指導内容や方法について検討した結果、指導力の向上を図ることができた。 ・百問繚乱の導入により試験の採点処理速度が大きく向上した。その分、試験問題の検討や、試験後の生徒の指導等に時間を割くことができた。
	保健体育	○生涯にわたり豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を身につけさせる ○健康・安全についての理解を深め、日常生活で実践できる知識と技能を習得させる		A	B		B	B	B	A	・体育の授業において男女共習や技能差のある生徒同士の学び合いという点を考慮し今年度も指導したが、運動強度や安全面の確保など改善の余地がある。 ・保健の授業で導入している探究的な学びでは、タブレットを用いてプレゼンする生徒も出ており授業が活性化している。
	芸術	○基礎的な知識、技術・技能の定着を図る ○幅広い活動を通して、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質や能力を育成する		A			B	B	A	B	・音楽書の各科目担当間で授業での実践内容、ICT機器の活用など多くの情報を共有し、指導内容について検討し、向上させることができた。 ・生徒の進路希望や興味関心に合わせ、授業内容を精選し、進路に合わせた個別指導を充実させて行うことができた。
	英語	○授業を中心とした指導展開に努め、基礎学力の定着を図る ○個に対応した指導の充実		A			B	B	B	B	・科目担当者間で、授業の進め方、定期試験等の作問、課題等について検討し、情報を共有し、生徒へ還元することができた。 ・速読・リスニング演習の定期的な実施や、ALTの活用により、4技能のバランスを図りながら指導ができた。 ・習熟度、少人数クラスの授業や個別の添削指導を実施し、個に応じた指導を充実させた。
	家庭	○普通科生徒に対しては、社会の諸課題を捉えより豊かな家庭生活や地域生活を創造する能力と実践的態度・技術を養う ○総合家庭科の生徒に対しては、家庭に関する専門的な知識と技術を体験的総合的に習得させ、それらを生かして社会の諸課題を改善する力を養う		A	B		B	B	A	B	・科目担当者間で情報を共有し、指導内容や実習課題などについて検討し、生徒にあった指導を行うことができた。 ・新しい視点や今日的な課題を理解させるために、新聞やDVD、動画などを利用した教材を活用できた。 ・多くのコンクール等へ参加し、各種の受賞をすることができ、生徒にとって励みとなった。
	情報	○ソサエティ5.0時代に対応可能な資質能力を養う ○情報に関する科学的な見方、考え方及び問題の発見、解決に活用できる知識技能を養う		A			B	B	B	B	・校外研修で得た技術や指導法を授業に反映させ指導内容を向上させることができた。 ・他校の情報科と協力し、習熟度を測る問題の共同研究を行った。次年度も継続していきたい。 ・ベネッセのPスタディを導入し、プログラミング等自学できる環境を整える事ができた。

(2)生徒・保護者アンケート結果分析

○学習・進路に関する項目は概ね8～9割の肯定的評価を得た。今後は全項目で肯定的評価が9割以上となるよう指導のさらなる充実に努めたい。
○安全・健康・生徒指導に関する項目では、防災・防犯及び交通安全指導、美化活動で生徒の肯定的評価が昨年度同様9割以上となった。また、いじめに関する項目では、生徒の肯定的評価が一昨年度・昨年度より上昇し8割以上となった。今後も引き続ききめ細かい指導に努めたい。
○特別活動に関する項目では、例年に引き続き部活動や生徒会活動の充実が全項目中最高評価である。今後も生徒の主体性を育む指導・支援に努めたい。
○電子黒板やタブレット端末の活用については、設備環境が整備され活用場面も増えたことから、生徒の肯定的評価が2年前より26.4％上昇した。今後も活用方法を研究し、教育活動の充実に努めたい。
○生徒・保護者への相談体制に対する評価については昨年とほぼ変わらない。引き続き信頼関係の構築に努めたい。
○情操と品位の醸成についても9割近い肯定的評価を得た。
○例年同様本校に対する総合的な満足度は生徒・保護者ともに高いが、全員が肯定的評価になることを目指したい。
○保護者の「わからない」という回答の多いものについては、折に触れ

(3)重点目標に対する総合評価(努力点ごと)

重点目標1 ①概ね達成できた。教科内での情報共有が十分に行われた結果、全教科でA評価となった。今後も教員同士の情報共有を図りつつ、授業や指導方法のより一層の工夫改善に努めたい。 ②概ね達成できた。教育目標である情操豊かな人間の育成に向け、今後もあらゆる教育活動において知・徳・体の調和のとれた生徒の育成を意識していきたい。 ③概ね達成できた。今後は受験学年である3年生での取組みを工夫していきたい。
重点目標2 ①概ね達成できた。今後もあらゆる場面で「自己の生き方」「自立」に向けた指導を全教職員が意識して教育活動にあたっていきたい。 ②概ね達成できた。今後も生徒一人一人に応じたきめ細かい指導に努めたい。また、高い志をもって最後まで諦めずに進路実現を目指す集団作りに努めたい。
重点目標3 ①安心・安全は教育活動の土台であるため、その確保と安全・健康意識の高揚に一層の努力をしたい。いじめに関しても、引き続き、きめ細かい指導の徹底と、相談体制の周知に努めたい。 ②ICTの活用により採点業務の負担が昨年度より軽減された教科が複数あり、昨年度より働き方改革が進んだと言える。今後もICTの活用をはじめ、業務負担の軽減に向けて知恵を出し合い、働き方改革に努めたい。

2 学校関係者評価及び評価結果に基づく今後の改善方策等

主な御意見
○家庭学習によりいっそう取り組ませるため、ICTを活用する等、課題の出し方や内容を現代の高校生の感覚に合わせてさらに工夫してもらいたい。
○近年ますます多様化してきている大学入試に向け、きめ細かい情報提供や指導によりいっそう努めてもらいたい。
○志望者が多い高校として、今後も魅力ある教育課程の検討に努めてもらいたい。

今後の改善方策等
○ICT機器の操作に長けている若手教員と学習指導について長年の蓄積があるベテラン教員とが互いに教え合い、学び合う関係をさらに深めるよう、学校全体で取り組んでいく。
○多様な大学入試や現実の問題に対応できる力を育成するため、理数探究基礎や総合的な探究の時間において取り組んでいる問題解決学習をさらに充実させる。
○科目選択ガイダンスや個別面談によりいっそう力を入れ、新しい教育課程が円滑かつ効果的に運用されるよう努める。